

環境経営レポート



発行日 2026年6月1日



株式会社オプトピア

— 目次 —

1. 組織の概要	2
2. 対象範囲	2
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限	3
3. 1 環境経営組織図	3
3. 2 役割・責任・権限	3
4. 環境経営方針	4
5. 環境経営目標及び実績	5
6. 環境経営計画の取組結果と評価及び次年度の取組	6
7. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	8
8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	9
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	9

1. 組織の概要

(1) 事業者名

株式会社オプトピア

代表取締役社長 井上 武久

(2) 所在地

[本社] 徳島県徳島市中島田町三丁目 56 番地 1

[横浜営業所] 神奈川県横浜市西区南幸 2 丁目 20 番 22-501 号

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

[代表者] 代表取締役社長 井上 武久

[環境管理責任者] R&D 山口 健治

[横浜営業所担当者] R&D 大島 亨

[連絡先] 088-678-7430 (本社)、045-412-1467 (横浜営業所)

[FAX] 088-678-7460 (本社・横浜営業所共通)

[Email] info@optpia.co.jp

(4) 事業内容

コンピューターシステムのコンサルティング・設計・開発・保守・サポート及び
ネットワークサービスの提供、労働者派遣事業、コンピューター関連機器販売

(5) 事業規模

[従業員数] 41 人 (2025 年 6 月 1 日現在)

[床面積] 302.12m² (本社 : 229.17 m²、横浜営業所 : 72.95 m²) (2026 年 6 月 1 日現在)

[売上高] 400 百万円 (2024 年 10 月～2025 年 9 月)

2. 認証・登録の対象範囲

(1) 認証・登録範囲

全社 (本社、横浜営業所)

コンピューターシステムのコンサルティング・設計・開発・保守・サポート及び
ネットワークサービスの提供、労働者派遣事業、コンピューター関連機器販売

(2) レポート対象期間

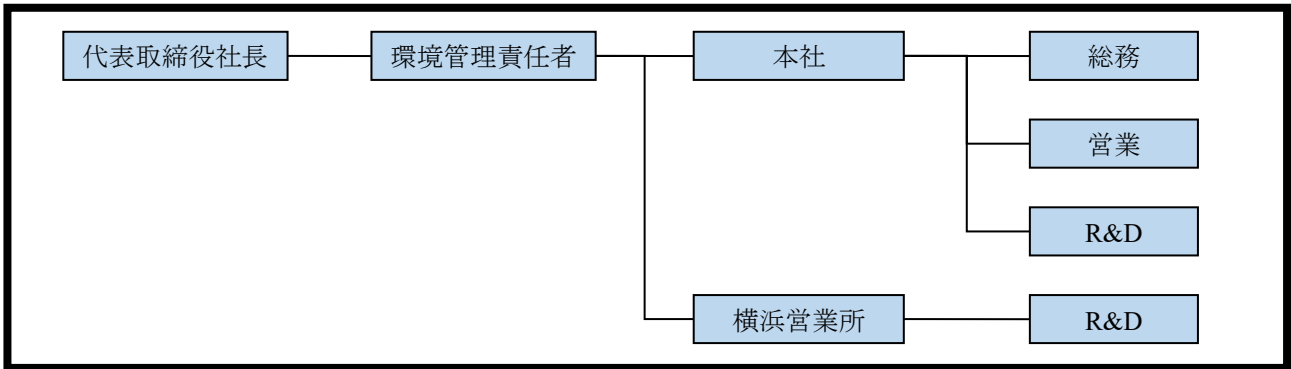
2025 年 5 月 1 日～2026 年 4 月 30 日

(3) 環境経営レポート発行日

2026 年 6 月 1 日

3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限

3. 1 環境経営組織図



——— 実線太線：登録認証対象範囲

3. 2 役割・責任・権限

担当	役割・責任・権限
代表取締役社長	環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な要員、資源の準備 環境管理責任者の任命 経営の課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定及び見直し 環境経営目標・環境経営活動計画の承認 代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	環境経営システムの構築、実施、管理 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの実施 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境経営目標・環境経営活動計画書の作成 環境経営活動の実績集計 環境経営活動取組結果の代表者への報告 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開 教育訓練（緊急事態を含む）の実施 是正予防処置の決定・指示
総務	環境経営データ収集 環境経営活動推進
営業	環境経営活動推進
R&D	環境経営活動推進

4. 環境経営方針

環境経営理念

株式会社オプトピアは、地球環境保全が人類の最重要課題の一つであることを全社員が認識し、「地球をユートピアに！」のスローガンのもとに、事業活動のあらゆる面で常に改善に努め、積極的に環境に配慮した活動を行うことにより環境経営を推進し、その継続的改善を図ることを通じ、社会に貢献します。

環境活動方針

株式会社オプトピアは、この環境経営理念を具現化するために次の活動を推進します。併せて、SDGs に取り組むことにより持続的に社会に貢献し成長していきけるよう積極的に活動していきます。ただし、パンデミック対策や被災時対応策等で命を守る行動についてはそれを配慮し優先します。

1. 事業活動において、以下のとおり、環境に配慮した行動を実践します。

- ◆ ソフトウェア開発事業や各種 IT サービス事業を通じて、省エネソフト開発人材の確保・育成し、各種自動化・IoT等の省資源・省エネルギーに関わるシステムを提供し地球環境保全に貢献する。
- ◆ 環境配慮型製品の販売を促進する。
- ◆ 太陽光発電による売電業務を継続し、環境活動に努める。
- ◆ 省資源、省エネルギー、リサイクルの継続的な改善に取り組む。
 - パソコンのコントロール設定による省電力化
 - モニター、TVの明るさ低減による省電力化
 - 電気製品（パソコン／照明／洗浄便座等）の電源オフ徹底による省電力化
 - 掃除機の早めの紙パック交換、エアコンフィルターの定期掃除の徹底
 - グリーン家電製品への交換による省電力化
 - LED照明の購入、影響の少ない照明の常時消灯
 - 複層ガラス窓、遮熱性・断熱性効果の高いスクリーンの採用による省電力化
 - クールビズ／ウォームビズによる省エネルギー化
 - 自転車による移動やハイブリッド車購入による省エネルギー化
 - 両面／縮小印刷、裏紙活用による省資源化
 - 水道の元栓を絞る、超節水・節電機能の便器購入による節水の推進
 - プラごみ削減のためのマイバッグ、マイボトルの推進
 - 使い捨てプラスチック食器の使用を避ける
 - リサイクル用品購入によるリサイクルの推進
 - グリーン購入法に適合した製品の購入と販売
- ◆ 在宅勤務時でも環境に配慮した行動に努める。
- ◆ AIを活用し生産性を向上することにより極力定時に業務を終了し省エネを図る。
- ◆ 将来的に営業車として電気自動車の購入を検討する。
- ◆ 環境教育等を通じて、全社員の意識向上を図り、環境活動に努める。
- ◆ 社員の健康を配慮して禁煙を促進し、環境活動にも努める。

2. 環境関連の法規、協定等を遵守すると共に、社内規定の制定により環境保全に努めます。

3. この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポート等で社外へも公表します。

4. 全社的に環境マネジメント・システムを運用するとともに、その維持・向上を図ります。

制定日 2005年10月1日

改定日 2026年6月1日

株式会社オプトピア 代表取締役

井上武久

5. 環境経営目標及び実績

中長期環境経営目標を表 5-1 に示す。

表 5-1 中長期環境経営目標

項目	単位	基準値			2024 年度目標			中期 (2025 年度) 目標			長期 (2026 年度) 目標		
		本社	横浜	合計	本社	横浜	合計	本社	横浜	合計	本社	横浜	合計
電力	kWh	23,000	2,000	25,000	22,770	1,980	24,750	22,540	1,960	24,500	22,310	1,940	24,250
ガス	m ³	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2
ガソリン	L	1,500	0	1,500	1,485	0	1,485	1,050	0	1,050	1,040	0	1,040
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	14,152	866	15,018	14,013	858	14,871	12,896	849	13,745	12,766	840	13,607
一般廃棄物	kg	136	0	136	135	0	135	133	0	133	132	0	132
産業廃棄物	kg	100	0	100	100	0	100	100	0	100	100	0	100
リサイクル	%	100	—	100	100	—	100	100	—	100	100	—	100
コピー用紙	kg	20.05	1.36	21.41	19.85	1.35	21.20	19.65	1.33	20.98	19.45	1.32	20.77
水	m ³	130	18	148	129	18	147	127	18	145	126	17	143
環境配慮型製品	件	168	0	168	170	0	170	171	0	171	173	0	173

※購入電力 CO₂ 排出係数 (単位: kg-CO₂/kWh) について、2023 年度 本社 0.464 (四国電力: 2024 年 9 月 27 日公表)、横浜営業所 0.431 (東京電力: 2024 年 8 月 2 日公表) を使用。

※中長期目標について、過去 5 年間 (2019~2023 年度) の実績の推移を踏まえて設定。

目標数値

- ・電力・コピー用紙・水の使用量、一般廃棄物の排出量について、基準値を元に削減率をそれぞれ 1%、2%、3%とする。
- ・ガスの使用量について、基準値を維持する。
- ・ガソリンについて、基準値を元に削減率を 2024 年度は 1%とするが、2025 年度、2026 年度は社用車が減少することと県外への移動も考慮して、目標設定する。
- ・CO₂ 排出量については、電力、ガス、ガソリンの使用量と CO₂ 排出係数により算出する。
- ・産業廃棄物の排出量、リサイクルの率について、基準値を維持する。
なお、リサイクル率は、排出量に対するリサイクル量の割合として算出する。
- ・環境配慮型製品について、基準値を元に向上率をそれぞれ 1%、2%、3%とする。
- ・化学物質については、使用の実態がないため、目標設定していない。

基準値

- ・上記の目標設定における基準値は以下のとおりとする。
電力: 過去 2 年間から削減が図られ横ばいとなっている直近 3 年間の実績値のうちの最大値を踏まえたものとする。
ガス: 使用量が極めて少ない (0~2 m³) ため、過去 5 年間の実績値の最大値とする。
ガソリン: 過去 5 年間の実績値の平均値を踏まえたものとする。
一般廃棄物: 過去 5 年間の実績値の平均値とする。
産業廃棄物: これまでの実績から突発的要素を考慮したものとする。
リサイクル: 過去 5 年間の実績値 (毎年 100%) とする。
コピー用紙: 過去 5 年間の実績値の推移を踏まえた直近 2023 年度の推定値 (2023 年度実績は異常値として除く。) とする。
水: 過去 5 年間の実績値の平均値を踏まえたものとする。
環境配慮型製品: 電子帳簿保存法に関連する状況変化を踏まえ、直近 2023 年度の実績値とする。

2025 年度における環境経営計画の実施後の結果は、表 5-2、表 5-3 のとおりである。

表 5-2 目標と実績及び達成率と評価

項目	単位	2025 年度目標			2025 年度実績			達成率 (%)			評価		
		本社	横浜	合計	本社	横浜	合計	本社	横浜	全体	本社	横浜	全体
売上高	百万円	—	—	410	—	—	400	—	—	—	—	—	—
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	12,896	858	13,755	12,125	699	12,824	116%	123%	106%	◎	◎	◎
電力	kWh	22,540	1,960	24,500	21,101	1,621	22,722	108%	122%	109%	◎	◎	◎
環境効率指数	kWh/百万円	54.98	4.79	59.77	52.76	4.05	56.81						
	kWh/人	500.89	43.56	544.44	468.91	36.02	504.93						
	kg-CO ₂ /百万円	25.77	2.08	27.85	24.48	1.75	26.23						
ガス	m ³	—	2	2	—	0	0	—	100%	100%	—	◎	◎
環境効率指数	m ³ /百万円	—	0.00	0.00	—	0.00	0.00						
	m ³ /人	—	0.04	0.04	—	0.00	0.00						
	kg-CO ₂ /百万円	—	0.01	0.01	—	0.00	0.00						
ガソリン	L	1,050	—	1,050	1,006	—	1,006	148%	—	148%	◎	—	◎
環境効率指数	L/百万円	2.56	—	2.56	2.51	—	2.51						
	L/人	23.33	—	23.33	22.35	—	22.35						
	kg-CO ₂ /百万円	8.62	—	8.62	5.84	—	5.84						
一般廃棄物	kg	133	0	133	110	0	110	122%	100%	122%	◎	◎	◎
環境効率指数	kg/百万円	0.33	0.00	0.33	0.28	0.00	0.28						
	kg/人	2.96	0.00	2.96	2.44	0.00	2.44						
産業廃棄物	kg	100	0	100	0	0	0	100%	100%	100%	◎	◎	◎
環境効率指数	kg/百万円	0.24	0.00	0.24	0.00	0.00	0.00						
	kg/s 人	2.22	0.00	2.22	0.00	0.00	0.00						
リサイクル	%	100	0	100	100	0	100	100%	100%	100%	◎	—	◎
コピー用紙	kg	19.65	1.33	20.98	7.87	0.00	7.87	252%	100%	269%	◎	◎	◎
環境効率指数	kg/百万円	0.04	0.00	0.04	0.02	0.01	0.06						
	kg/人	0.43	0.03	0.46	0.17	0.00	0.17						
水	m ³	127	18	145	88	10	98	146%	178%	146%	◎	◎	◎
環境効率指数	m ³ /百万円	0.31	0.04	0.35	0.22	0.03	0.26						
	m ³ /人	2.83	0.39	3.22	1.96	0.22	2.18						
環境配慮型製品	件	171	0	171	257	0	257	151%	—	151%	◎	—	◎
環境効率指数	件/百万円	0.42	0.00	0.42	0.64	0.00	0.64						
	件/人	3.81	0.00	3.81	5.71	0.00	5.71						

※環境効率指標は、環境負荷÷売上高（百万円）、環境負荷÷人数（人）で算出。

※対象期間は、2024 年 5 月～2025 年 4 月までの 1 年間。

※評価の凡例は、◎：目標達成、○：達成率 80%以上、△：達成率 60%以上、×：達成率 60%未満、—：対象外。

表 5-3 CO₂ 排出量

項目	単位	2025 年度目標				2025 年度実績				達成率		
		本社	横浜	合計	割合	本社	横浜	合計	割合	本社	横浜	全体
電力	kg-CO ₂	10,459	845	11,303	82.2%	9,790	699	10,489	81.8%	107%	121%	108%
ガス	kg-CO ₂	—	4	4	0.0%	—	0	0	0.0%	—	100%	100%
ガソリン	kg-CO ₂	2,438	0	2,438	17.7%	2,335	0	2,335	18.2%	104%	—	104%
合計	kg-CO ₂	12,896	849	13,745	100.0%	12,125	699	12,824	100.0%	106%	122%	107%

6. 環境経営計画の取組結果と評価及び次年度の取組

環境経営活動	達成・実施状況	次年度	評価及び次年度の取組
電力の二酸化炭素排出量削減			
数値目標	◎		本社、横浜営業所とも目標を達成できた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・空調の適温化（夏季：室温 28℃、冬季：室温 20℃）	◎	継続	
・エアコンのフィルター掃除（月 1 回）	◎	継続	
・照明の適正化、スイッチの適正管理の徹底	◎	継続	
・クールビズ/ウォームビズによる省エネルギー化	◎	継続	
・長期離席時のパソコン電源 OFF	◎	継続	
・人がいない場所の照明 OFF	◎	継続	
・モニター、TV の明るさ低減	◎	継続	
・グリーン家電製品への交換による省電力化	◎	継続	
ガスの二酸化炭素排出量削減			
数値目標	◎		全く使用することはなく目標を達成することができた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・給湯器の適温化、夏季の使用停止	◎	継続	
ガソリンの二酸化炭素排出量削減			
数値目標	◎		効率的な客先回りやエコ運転等の環境活動により、 目標を達成することができた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・アイドリングストップ	◎	継続	
・急発進、急加速や空吹かしの排除	◎	継続	
・駐停車中のエンジン停止	◎	継続	
・極力、公共交通機関、自転車の利用	◎	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	◎		目標を達成することができた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・使い捨て商品（紙コップ等）の使用・購入の禁止	◎	継続	
・マイバッグ、マイボトルの推進	◎	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	◎		排出なし。（目標達成） 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・分別の実施	—	継続	
リサイクルの推進			
数値目標	◎		ダンボールや雑誌類などを 100%リサイクルすることができた。次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・ダンボール・雑誌類のリサイクル	◎	継続	
・リサイクル用品購入によるリサイクルの推進			
コピー用紙の削減			
数値目標	◎		本社、横浜営業所とも目標を達成することができた。次年度も目標を達成できるように環境経営活動を徹底する。
・両面/縮小印刷	◎	継続	
・裏紙活用	◎	継続	
・必要書類以外の印刷禁止	◎	継続	
水の削減			
数値目標	◎		節水を徹底することにより、目標を達成することができた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・水道の元栓を絞る	◎	継続	
・節水呼びかけ	◎	継続	
環境配慮型製品の開発・販売			
数値目標	◎		目標を達成することができた。 次年度も目標を達成できるように環境経営活動を継続する。
・グリーン購入法に適合した製品の販売	◎	継続	

※数値目標：◎目標達成、○達成率 80%以上、△達成率 60%以上、×達成率 60%未満

※達成状況：◎よくできた、○まあまあできた、△あまりできなかった、×全くできなかった、—未実施。

※日程：空調の適温化、クールビズ/ウォームビズによる省エネルギー化 6～9 月、12～3 月 これ以外は、通年。

7. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

項目	単位	2026 年度目標			目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール 2026 年 5 月～2027 年 4 月
		本社	横浜	合計			
電力使用量の削減	kWh	22,310	1,940	24,250	空調の適温化 (夏季: 室温 28°C、冬季: 室温 20°C)	本社: 山口 横浜: 大島	→
					エアコンのフィルター掃除 (月 1 回)		
					照明の適正化、スイッチの適正管理の徹底		
					クールビズ/ウォームビズによる省エネルギー化		
					長期離席時のパソコン電源 OFF		
					人がいない場所の照明 OFF		
					モニター、TV の明るさ低減		
					グリーン家電製品への交換による省電力化		
ガス使用量の削減	m ³	—	2	2	給湯器の適温化、夏季の使用停止	横浜: 大島	→
ガソリン使用量の削減	L	1,040	—	1,040	アイドリングストップ	本社: 山口	→
					急発進、急加速や空吹かしの排除		
					駐停車中のエンジン停止		
					極力、公共交通機関、自転車の利用		
CO ₂ 排出量の削減	kg-CO ₂	12,767	840	13,607	電力及びガソリンと同様		
一般廃棄物排出量の削減	kg	132	0	132	使い捨て商品 (紙コップ等) の使用・購入の禁止	本社: 山口 横浜: 大島	→
					マイバッグ、マイボトルの推進		
産業廃棄物排出量の削減	kg	100	0	100	分別の実施	本社: 山口 横浜: 大島	→
リサイクルの推進	%	100	—	100	ダンボール・雑誌類のリサイクル	本社: 山口 横浜: 大島	→
					リサイクル用品購入によるリサイクルの推進		
コピー用紙使用量の削減	kg	19.45	1.32	20.77	両面/縮小印刷	本社: 山口 横浜: 大島	→
					裏紙活用		
					必要書類以外の印刷禁止		
水使用量の削減	m ³	126	17	143	水道の元栓を絞る	本社: 山口 横浜: 大島	→
					節水呼びかけ		
環境配慮型製品の開発・販売	件	173	—	173	グリーン購入法に適合した製品の販売	本社: 山口 横浜: 大島	→

※日程：空調の適温化、クールビズ/ウォームビズによる省エネルギー化 6～9 月、12～3 月 これ以外は、通年。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規への遵守状況について、毎年度終了時に環境関連法規の取りまとめに基づき確認しているが、環境関連法規への違反はない。また、関連機関等からの違反等の指摘や訴訟もなし。

表 7-1 主な環境関連法規の遵守評価

法規名	実施事項	評価
廃棄物処理法	排出者責任の明確化／事業者の産業廃棄物の保管／産業廃棄物の収集運搬・処分の委託基準（委託契約の締結等）／産業廃棄物管理票の発行・保存	○
容器包装リサイクル法	容器包装のリサイクルの推進	○
浄化槽法	浄化槽の設置または、構造、規模の変更届／水質検査／浄化槽の保守点検及び浄化槽の清掃	○
フロン排出抑制法	空調機の簡易点検、定期点検	○

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 環境経営方針

変更あり。次のとおり環境経営方針を見直し、従業員への周知を図ること。

①環境活動方針に次の項目を追加する。

- ・ AI を活用し生産性を向上することにより極力定時に業務を終了し省エネを図る
- ・ 将来的に営業車として電気自動車の購入を検討する

(2) 環境経営目標・環境経営計画

変更なし。引き続き次年度も目標達成に向けて推進すること。

(3) 経営システムの各要素

変更なし。現状どおりで継続して推進すること。

実施者：代表取締役 井上 武久

実施日：2026年6月1日